

発行：2008年4月25日/発行責任者：特定非営利活動法人 シャンティ山口 代表 角 直彦
連絡先事務局 〒753-0215 山口市大内矢田 717 佐伯昭夫 電話/Fax 083-927-4083
ホームページアドレス：<http://www.shanti-yamaguchi.com/>

自然と共に生きる自由の民「モンの人々」写真展

・活動報告 ～来年につなぐ～

平成20年3月31日「写創蔵」での[活動報告・写真展2007]を終了しました。

毎回、他に例を見ない企画でユニークなコーディネートと評価され、次への期待を引き受けつつ元気をもらっています。開催日24日間、異常天候に阻まれたにもかかわらず、ご来場いただいた842名の皆さまをはじめ、関係者の方々に支えられご理解とご協力のおかげをもちまして次へのステップに繋げることができました。

また、各方面からの取材や、ご関心をいただき、広報がなされました。ありがとうございました。

- ・月刊誌 フォトコン3月号 写真展スケジュールに掲載。
- ・月刊誌 ニッポンカメラ4月号 写真展ガイドに掲載。
- ・山口新聞、朝日新聞、西日本新聞、中国新聞（情報交差点）、毎日新聞 各社に掲載
- ・山口ケーブルビジョン それーね（情報番組）3月14,15,16,オンエア
- ・NHK ゆうゆうワイド 生出演3月24日（月）オンエア



[竹・絆 シャンティ山口 活動報告 2007.] (写創蔵) 2008.3.1.



モン族伝統楽器「ケーン」・民族衣装



「自然循環式エコトイレ」第1号の模型



美東町

タイの山岳民族15年間支援 NPO(山口市)が写真展 活動や暮らしを紹介

タイの山岳少数民族の自立を十五年間支援している特定非営利活動法人(NPO法人)「シャンティ山口」(山口市、角直彦代表理事)の活動や現地の人々の暮らしを紹介する写真展が、美東町赤の「秋吉台フォトギャラリー」で開かれている。入場無料。三十日まで。

タイ北部では、インド



タイの山岳少数民族の暮らしやシャンティ山口の支援活動を紹介する写真展

事務局長(左)が撮影したカラー写真、二百枚を展示。同会の十五年間の歩みと、現地の暮らしや人々の笑顔、エコトイレの仕組みなどを紹介している。佐伯事務局長は「展示から何かを感じ、山岳民族や環境のためにできることを実践してほしい」と話している。

会場では、モン族の女性が色鮮やかな刺しゅうを施した小物や竹細工などを展示即売し、収益金を自立支援に役立てる。午前十一時から午後四時まで。定休日は水、木曜日。写創蔵1090(7595)9081。

西日本新聞

発行所
西日本新聞社
福岡市中央区天神一丁目
4番1号 (〒810-8721)
©西日本新聞社 2008年

3月13日 (木曜日)

タイでの支援活動15年



自分と同じ年頃の子どもが写った写真を眺める子どもたち＝美東町赤で

NPOが写真展 美東

タイ北部のモン族など山岳民族を支援しているNPO法人「シャンティ山口」が設立15年を迎え、美東町赤の秋吉台フォトギャラリー「写創蔵」で活動を紹介する写真展を開いている。31日まで。

シャンティ山口は、タイのカンボジア難民キャンプに古着を送る運動をしていた曹洞宗僧侶ボランティア会員支部の有志らが作った。写真展では約200点を展示。子どもたちが中学や高校に通えるよう設立した学生寮の様子や人々の笑顔が並ぶ。山岳民族の鮮やかな刺繍作品や民族衣装も展示している。

学生寮では中高生50人がブタやニワトリを飼い、米も作って自給自足の生活を送る。その中から、同国最難関の大学に進む生徒も出てきた。自然循環式トイレの設置も進めており、写真展では仕組みも紹介している。

山岳民族はインドシナ内戦で住んでいた土地を追われ、貧困にあえぐ人が多い上、民族差別も受ける。佐伯昭夫事務局長は「彼らのために何ができるのか、思っただけではなく、みんなで実践してほしい」と話す。入場無料。午前11時～午後4時まで、木曜は休み。

タイ支援15年の軌跡

NPO「シャンティ山口」

タイ北部の山岳少数民族を支援している特定非営利活動(NPO)法人「シャンティ山口」(角直彦代表理事)の活動を紹介する写真展が、美東町赤の大正洞駐車場にある秋吉台フォトギャラリー「写創蔵(しゃくら)」で開かれている。三十一日まで。入場無料。

美東で写真展

佐伯昭夫事務局長(左)の重さを感じている。「撮山口市大内矢田」が十影時には幼児だったが、五年間にわたり現地で撮りまは私たちが学生寮を影した約二百枚を展示し、経てタイの難関大学に進んでいる。村々の風景を学したり立派に働いている。素朴で温かみを感じたりする。これまで自立させざる家族のスナップのための支援をしてきたや子どもたちの純粋な笑顔を支えてくれるのも遠くでも明るさを失わずに生きている様子をつかき、感慨深い表情を浮かべさせる。

佐伯事務局長も写真を現地の衛生面を改善する通して十五年という歴史のため、佐伯事務局長ら「少数民族の暮らし知って」



タイ北部の山岳少数民族を紹介するシャンティ山口の佐伯事務局長

収益は山岳少数民族の自立支援に役立てるとい

佐伯事務局長は「山岳少数民族のことや村の生活を、まずは知ってほしい。そして、私たちの生活を振り返ったり、心の豊かさというものに気付いてほしい。見て知ってもらうことが、何かの変化、きっかけになれば」と話している。

開館は午前十一時から午後四時。毎週水、木曜日は休館。問い合わせは佐古管理主任(☎090・7595・9081)へ。

日本の肥たためをヒントに考案した「自然循環式バイオトイレ」の模型も展示。し尿を微生物などの働きで処理するもので、現地でも好評を得ているという仕組みを分かりやすく解説している。竹や音楽で演出した会

シャンティ山口 1993年に発足。タイ北部業や女性グループによる刺しゅうなどの手芸製作を奨励したり、伝承文化の継承、環境衛生などの指導といった生活改善に取り組んでいる。県曹洞宗青年会と、山岳少数民族の子息のために学生寮を建設したり、奨学金制度で進学支援するなどの教育面にも力を入れている。

萩長門美祢



情報お待ちします

★萩支局★
☎ 0838(22)6196
FAX 0838(22)6151
✉ yhagi@minato-yamaguchi.co.jp

★長門支局★
☎ 0837(22)6844
FAX 0837(22)6848
✉ ynagato@minato-yamaguchi.co.jp

★美祢支局★
☎ 0837(52)0818
FAX 0837(52)1539
✉ ymine@minato-yamaguchi.co.jp

循環型社会形成のモデルプラント完成(地球環境基金助成)



平成19年度地球環境基金の助成を受け、トイレの普及に併せて人糞によるメタンガスを収集し家庭用燃料に使用する装置の開発実践に着手し、3月完成しました。

「地球環境基金」

処理過程では、地域の微生物(土着菌)による浄化と、残留肥料分は、薬草の栽培を介して処理します、モン族の伝統の薬草文化を保存継承するため老人会のモデル薬草園としてスタートしました。また、ガスは、村の幼稚園で給食用の煮炊きに使って好評を得ています。

山岳民族の村では、トイレのない家にエコトイレを設置し、トイレから発生したガスにより煮炊きを賄うことにより薪の節約をします。自然エネルギーを最大限に利用し、みんなで地域環境整備を実践することが自然循環型社会を創り、地球の延命に役立つと共に、住民の暮らしの向上に繋がると確信しています。

毎 日 新 聞 2008年(平成20年)4月18日(金) 山口 地域

日本の農村の知恵が生きる

国内で利用されている登山者用「山岳トイレ(エコトイレ)」がタイで活躍している。自然循環式トイレで15年以上、タイ北部のモン族の自立支援を続ける山口県のNGO「シヤンティエロ」が06年から現地の村で建設を進めており、現在は6号機まで完成。佐伯昭夫事務局長(63)は「日本の農村の知恵がタイで生きている。タイ政府も動き始めた」と期待する。

NGO「シヤンティエロ」

循環型トイレは、五つを疑った。スコールに尿が自然発酵し、大腸菌などを死滅させるのが特徴。さらに微生物の働きで病原菌を殺してできる栄養価の高い真水を畑に引き込む。この間、人の手を一切煩わさない。導入のきっかけは伝染病だった。モン族の村では95年ごろから伝染病で亡くなる子どもが続出。佐伯さんは99年、雨期の村を訪ね目撃した。試行錯誤を重ね、現地に合う方式を

「肥だめ原理」ヒントに試行錯誤

エコトイレタイで活躍

山岳民族の自立を支援



エコトイレと村について話す佐伯さん。左がエコトイレの模型

誕生させた。昨年、環境省の外郭団体の地球環境基金から助成を受け、し尿を使ってメタンガスを収集。家庭用燃料へ転換するガス発生装置にも取り組み始めた。プタ3頭の汚物で実験。50人分の煮炊きを賄えることを確認し、村での実践に踏み切った。佐伯さんは「汗を流して一緒に作った装置だからこそ村の人も大切に。自分たちで修理も増築もできる。今後は自分たちの手で増やしていったほしい」と話している。

—環境衛生支援募金にご協力をお願いします。—

2008.4. saeki